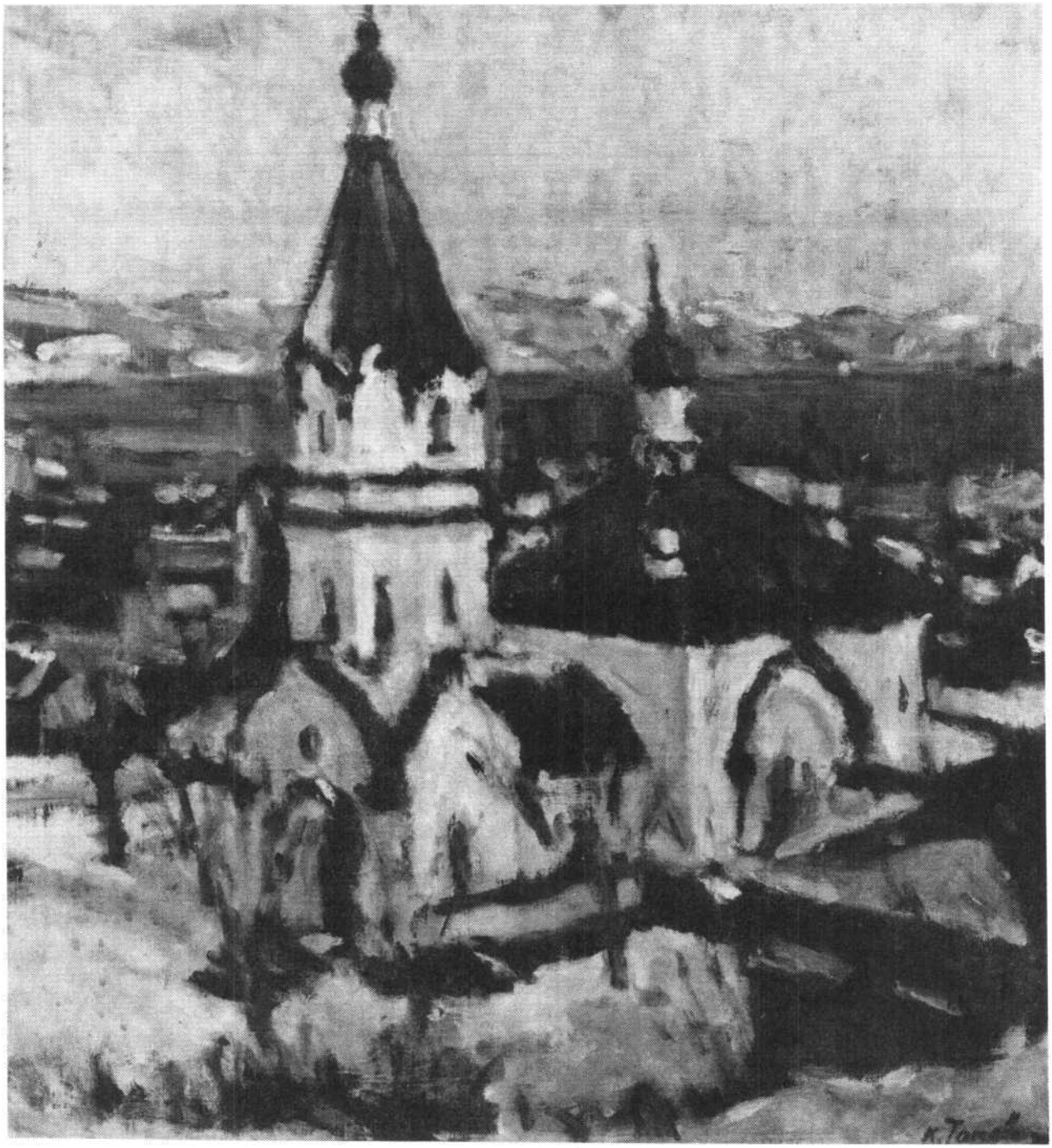
東京白楊だより

第4号
56.7.1



雪晴れ（函館ハリスト教会堂）　　田辺謙輔 画

白楊丘同窓会東京支部

函館中部高等学校
旧制函館中学校

初一念忘るべからず

支部長　北川有光

東京支部を設立して今年ではや五年。また、私が二代目支部長に就任して、既に一年有余。

いま更いうまでもなく、東京支部は既存在京函中会と未結成であった新制高校卒業生とを一体として設立した。その目的は、支部結成時に掲げた「本会は、会員相互の親和を図り、知徳を修業し、且つ、母校教育の精神を発揚することを以て目的とする」である。

目前の狭視末稍的瑣事に狂躁するがごときことなく、初心に則り、目的の主旨に沿うべく一段と真摯に想いを致すべき秋である。

また、わが郷土函館において、刮目すべき文教施設の計画が展開されているときく。更に、このたび、国は二十一世紀の都市「テクノポリス」建設候補地として、わが函館の内定を報じている。競走熾烈。

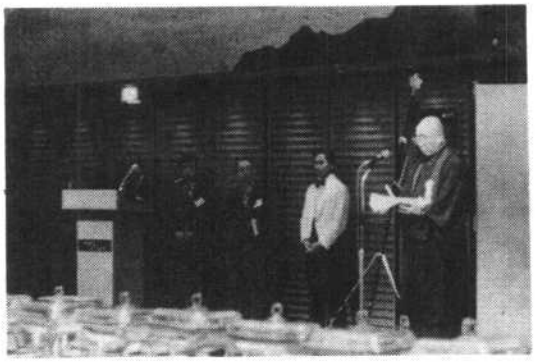
郷土を愛するものとして、この二大課題の実現に大なる願望をかけ、東京支部会員の総力を結集し、支援すべきではなかろうか。

会員諸君の奮起を望むや切。

第4回　白楊丘同窓会東京支部総会

昭和五十五年十月三十日
ホテル・オークラにおいて開催
同窓会員二六五名出席

この日は晴天。会場に歩は立食パーティにした。会場を運ぶ会員の足どりは軽い。中央に豪華料理が並びそれを会場ホテル・オークラ曙の囲み卒業年度別を標示したテーブルを配置した。大会総司間は有名人の大規模パーティに使用する赤ジュータンの豪華な控え間付三百坪の大宴会場である。受付コーナーではこの日を祝い参加者へ贈呈するため特別に用意した北川支部長寄贈の選書数百冊がうず堆く積まれ一人びとりに贈られた。心憎いこの心くばりに参会者は大喜び。午后六時三十分開会までの待ち時間を利用し函館市役所製作の懐かしい故郷の風景16ミリの映写会が行なわれた。先輩後輩とも気軽く交歓を交わし易い会場設営をせよと云う会員の声により、今回局長大変な感激ぶり。先輩に肩を叩かれ懐しさの笑顔をみせる後輩、久しぶりの再会にけたたましい嬌声をあげながら手を取り合い郷土弁で語りあう女性会員、景気の好、不況を大声で話し明日への飛躍を誓い合う壮年実業家会員、お互の血圧を確め合い孫の数を競い健康のためのゴルフ礼讃談議に興ずる功なり名を遂げた大先輩会員、同窓会ならではの情景である。ホテル側のご好意によって、スペイン以外の国でライセンスを持つ人はこのひと一人だけというシェリー酒の曲注ぎベネンシアドール桑山為男氏の美事なヒシャク捌きで大先輩連にシェリー酒の献杯、シェリー酒に酔いその妙技に驚嘆し時を忘れた。この日の参会者は若い会員が多かった。



（佐々木順一記）

会歌〝玄冥の北の一道〟のBGMの流れにのって同窓会々旗の入場から始まり、北川東京支部長（26期）は会員の出席参加をより多くする同窓会の在り方とその発展に対し今後の期待を述べて挨拶とされた。

同窓会本部の笹島吉平会長（41期）は昭和56年を目途に札幌支部及び函館支部を結成し一本部制を敷く方針を発表した。恩師石畑先生のご祝辞に続き、柴田本部事務局長の挨拶の中で母校音楽部が全国高校合唱コンクールに北海道代表に選出されたと告げ資金カンパを訴えた。これに呼応し会員から拾数万円が拠出された。さすがは東京支部会員！と柴田

財務あれこれ

昭和55年の収支内容は未だ年度半ばのためお知らせすることができません。昭和56年5月末現在支払余裕金は一一六万一千円であります。

そこで収支結果が判っている昨年10月に開催した第4回支部総会の収支決算状況をお知らせします。

①収入―当初予定の線どおり出席者は二六五人で会費収入は一七二万二千円、寄附金はご協力者が多くまた母校音楽部全国大会出場後援費寄附募集が行なわれ、締めて二三万八千円の臨時収入、記念品売上代五万四千円を加え収入合計は二〇一万五千円であります。

②支出―会場ホテル・オークラ払い一四八万二千円、当日には欠かすことのできない主飲料ウイスキー代は一〇万円を割って九万九千円、記念品二点製作費九万六千円、その他所要経費七項目の支払い一一万円と母校寄附金一〇万円を加え支払合計は一八八万円であります。収支差引残一二万七千円は次回繰越金に充てます。ホテル側から大変なサービスを戴いた由も承りました。お礼を申し上げます。

第4回白楊丘同窓会東京支部総会収支報告書

昭和55年10月30日開催

収入 区分	金額(円)	説明	支出 区分	金額(円)	説明
総会々費	1,722,500	@6,500円×265人	ホテルオークラ支払	1,482,720	
寄付金	238,625	238,625円 …… ㋑+㋺	ウイスキー代	99,000	
		110,000円 …… ㋑	記念品製作代	96,500	㋑タイピン 72,000円 ㋺ 帽子 24,500円
		斎藤鎮雄氏 30,000円	会旗関係費	95,140	
		北川有光氏 30,000円	母校音楽部寄附	100,000	
		笹島吉平氏 30,000円	会計報告等印刷代	32,000	㋑ 会計報告 ㋺ 領収書
		寺岡二郎氏 10,000円	恩師おみやげ代	6,370	
		石塚善四郎氏 10,000円	本部員宿泊代	12,500	
		128,625円 …… ㋺	写真代	8,700	
		(母校音楽部全国大会出場後援費寄附金)	受付経費	19,140	19,145円 …… ㋑+㋺+㋩
					事務用品 1,145円 …… ㋑
					名札 3,000円 …… ㋺
					受付事務謝金 15,000円 …… ㋩
記念品売上代	54,000	54,000円 …… ㋑+㋺			12,000円 …… ㋑+㋺
		・タイピン売上 39,000円㋑ @1,500円×26コ	映写機費用	12,000	謝礼 10,000円 …… ㋑
		・帽子売上 15,000円㋺ @5,000円×3コ			交通費 2,000円 …… ㋺
収入合計	2,015,125		支出合計	1,888,075	
			収支残	127,050	次回へ繰越

◉年会費お早めに、あなたの期の理事にお届けください

期によって、総会出席者数が、年会費納入者数の人数を上回った

年会費は期理事を煩わし取り纏めをお願いしており、届ける側も纏める側も手数が煩わしい仕事です。

総会は出欠照会の往復はがきの処置だけのようで、前者に比べいささか手数は煩瑣ではないようです。

手数の難易の差が、下表の数字となって示されたのでしょうか。

これはその時どきの都合による一時的現象としてみるのが妥当でしょう。

従って、少なくとも3%―19人、0%―50人のような現象はできるだけ逓減するようご協力をお願いします。

年会費納入%別グループ	総会出席者数が年会費納入者数を上回った数	年会費納入%別グループ	総会出席者数が年会費納入者数を上回った数
60%台グループ	1人	10%台グループ	3人
40%台〃	9	3%台〃	19
30%台〃	1	0%台〃	50
20%台〃	4	計	87

年会費納入状況

納入実績 %		該当の期の数	納入実績 %		該当の期の数
100%台	100 %	1	20%台	25%~27%	3
70%台	72%~79%	2	10%台	17%~18%	2
60%台	61%~66%	5	3%台	3%	2
50%台	53%~58%	5	0%台		11
40%台	40%~47%	8	○ 全体で 30%		
30%台	31%~36%	6			

昭和55年度会費納入実績は全体で30%に止まりました。低率の原因はいろいろでしょう。

例えば、期理事が長期療養のため同窓会活動が停滞したとか、期の理事の引受手がないため、他の期の理事が代行しておることから、情況不案内で活動が思うにまかせなかったとか、また、その他いろいろの事情があったことでしょう。しかし、このうち、その他の理由が納入低率の最大の原因ではないでしょうか。

会費納入の動向は、支部の発展消長如何を左右する重大な影響を、直接にもたらします。

この点をご理解いただき、各期理事並びに会員各位のご協力をお願いします。

随想

我が野球生活の思い出

斎藤達雄
大11卒（第24期）

私は今六十年前の感激の一瞬を思い浮べてペンを取っている。大正十年八月四日は私の長い野球生活に於て忘れることの出来ない思い出の日であるそれは全国の高校野球選手の憧れの的である夏の甲子園の全国高校選抜野球大会に北海道代表として出場が決定した日である。北海道大会は八月一日から四日間函館の湯の川球場（現在は競馬場になっているとか）で行なわれた。北海道大会出場校は根室・旭川・札幌・小樽・函館地区からの十二校で最後まで残ったのは同じ函館の函中と函商で両校の間で優勝決定戦が行なわれた。函館市の野球ファンは二分され優勝は函中か函商かでわきにわいた。予想は断然函商が有利で7対3の下馬評だった。試合は函中が先取得点し優勢に進み予想に反し7対2で我函中が優勝し栄ある優勝旗を手にすることができた。この感激はひとしお胸に迫るものがあった。当時のメンバーは、8峰尾　7斎藤　1二階堂　6高山　5田中　3岡崎　2西村　4加畑　9藤山　田村　井山　内山であったと思う。

メンバーの中で高山・峰尾・内山君以外の人の消息はわからない。ご健康とご多幸を心から祈ってやまない。

第七回全国高校選抜野球大会は鳴尾球場（当時は甲子園球場は出来ておらず）で行なわれた。全国大会では岡山一中に一回戦で4対3で惜敗し残念だったが全力を尽して戦ったので悔はなかった。私事で恐縮だが中学卒業後立教大学に進み神宮野球場の球場開きの紅白試合に六大学野球連盟より選抜されて出場し、六大学リーグ戦の現在の摂政杯を授与されたこと、昭和六年米国のプロ野球選手ベーブルース、ゲーリック等が来日した時全国の野球ファンによる投票で全日本選手として選ばれ試合したこと、都市対抗野球大会で球界の大先輩橋本・久慈両氏バッテリーの函館太洋倶楽部と東京代表東京倶楽部の選手として試合し3対1で勝ったこと等は誇らしい思いでである。

長い長い野球生活の中で走馬燈のように脳裡に浮んでくる楽しかったこと、苦しかったこと、残念だったこと、これらの数々のなつかしい思いでをふり返り、青春時代野球に精魂を打込み、きびしく苦しかった訓練に耐え、規則正しい生活を続けたことが今日の私の健康をはぐくみ育ててくれたと信じている。齢七十七才に達する現在尚現役で働いていることを誇りにもし幸福に思っている。

人生は一度きり

菅原茂夫
昭15卒（第42期）

東北の鄙村で生まれ小学校6年生の時（昭和9年—函館大火の年）函館の父母の元に戻った私は、ひどい学力差のため一浪後函中に入学出来たので、人一倍合格がうれしかった。庁立の男子中学は函館は一校しかなかったので入試は難関であった。当時の校舎一帯にまっすぐにのびたポプラの葉が陽に映え、私達の希望に燃えた青春を謳歌してくれていた。柏野で教練をした時の草いきれがなんともなつかしい。南京陥落の時、招魂社に奉祝の参拝に行った事も約半世紀前の夢のような話。個人的なこととして忘れられないのは、私がある女性問題の事件を起こし危うく退学処分になろうとしたことがあるが、職員会議の結果（夜間中学に入っていた小学校の同級生S君が昼間給仕をしていたので教えてくれたのだが……）カラスと云う仇名のM先生一人が退学に反対してくれ停学ですんだ事、有難いM先生の面影が浮んで来ます。中学4年の時親友のO君が七重浜の水泳訓練中水死した事故で、私は余りのショックでノイローゼになったこともある。その前夜彼と銭湯に行き、明日はサボろうと私が云ったのに、彼はいやだと云ったので、この事故に会って了ったのだ。身近な人が突然死ぬと云う生れてはじめての衝撃に出合った訳である。

激動の中を生き抜いて来ている私達昭和15年（第42回）卒業生は一度きりの人生を大切に過している筈である。人生はたしかに不確実なことがある。しかし厳として「人生は一度きり」と云う確実なものがあることを知らなければならない。50才を過ぎた頃からそう云う思いを同窓生もかみしめているのではなかろうか。昨年の高楊会からのお知らせで卒業生中戦争や病気で他界した方が47名もおられることを知った。その中には私と親しくしていた友人も何人かいる。なんともせつない気持だ。私達同窓生は半世紀に近い歳月——この間私達は長い長い戦争と云う大きなアクシデントをのりこえて——生き抜いて来ている。

しかもかけがえのない青春の数年間をその間経ていることを更めて考えさせられるのです。しかし、人生は二度ないのです。折角ここまで生きて来たのだから、どんなことがあろうとも、この一度きりの人生を大切に生きのびるのだと私同様同窓生も考えていることであろう。それだけに函中時代は希望に燃えていた貴

随想

重な5年間だったので、今なおキラキラ宝石のように輝いているのです。

歳月が飛び去る

大原孫七　昭7卒（第34期）

「同窓とわかるとなんとなく年令や社会的地位といった垣根がとり払われ、不思議な親近感が生まれる」という戦争当時の先輩のお話しが今もはっきり耳に残っている。

同窓とわかって、銀行取引が円滑に進むようになったとか、税務署の調査がおだやかになったとかいう体験談をきいたことも一再ならずである。

二〇余年前、服部貿易の土方社長（当時）から格別ごひいきにあずかり、又大学入学の際始めて青函連絡船へ乗った、艀で本船へ辿り着くのが大変だった等の昔話を伺ったのも、同窓という絆によるところと想い起される。

これが同期ともなれば又格別である。

先般の在京同期（昭七卒）会の折、卒業以来始めてあった人もいたが、とっさには名前と顔が一致しなくても、一寸話している間に新入当時の面影、運動会の時の思出といったものがなんとなく浮かびあがり、五〇年の歳月、六〇才台の顔が消え去って了う思いだった。

「野球やサッカーをやった運動場はない」

「学校の敷地を囲んでいたポプラは姿を消した」

「プールもなく、五陵郭の濠で泳いだが今思えば衛生もへチマもなく、貧しいものだった」

などの懐旧談のうちはいいが、アルコールの浸透と共に、素破抜き、ムリした悪たれぶり、思春期の告白等へとめどもなく発展、真偽の程もさだかでなくなる。そして時間がくると皆ケロリとして帰途につくのだった。

専門学校の会も勿論楽しいが、殆んどが似たようなサラリーマン業で、変った話題が少い。中学だといろんな職業の人がいてヴァラエティに富むし、子供から半大人（？）になる時期を一緒に過ごしているので自ら別種の雰囲気が譲成される。

それにしても東京の白楊会へ出るといささかならず寂しい。古い古い卒業生であることを改めて思い知ることになるからである。

短歌

ポプラが丘　あけび同人　海（うみの）明人（あけびと）

ポプラが丘に雲雀鳴く少しのぼりになりゐしやいなや

同窓の益谷等が云ひけらく記念にポプラ四五本残すのみ

漸くに老いし誰彼愛（かな）しめど吾は葛飾（かつしか）に精一杯の生きざま

函館の大森浜のしほかぜに梅枯れにけり吾家（わぎへ）に住まず

蔓うばらくれなゐ編みて渡す橋亀ふとりけり吾は住まぬに

（川原　公成　昭12卒　第39期）

"運動と健康"

伏見滋夫　昭7卒（第34期）

六十七才となった今日、一度の入院（北支徐州戦線でアミーバー赤痢にかかり一ケ月入院しただけ）よりせず、息災で生きてこられたと云うことは私の場合、出来るだけ長く自分の体に合った運動をやって（現在はゴルフのみ）来て体力を維持して来たからでないかと思う。現在は少少血圧が高いだけで（一六〇―九〇これは遺伝体質でもあるが）至って元気一杯。昨年秋も草野球で七イニングを一塁手、三塁手を無難にこなし打撃でも三―一で敢斗賞を戴いた次第である。少々自我自讃で恐縮ですが私は函館の旅籠町生れで翌年元町の船魂神社境内の四軒長屋に引越しそこで小学校時代を過した。いつも函館山の山麓を馳け廻り秋には要塞地帯（戦前は函館山は要塞でしたのバラ線内に忍びこんで栗、コクアの実等を戴いて歩哨の兵隊さんに追いかけられたことも再三ありましたが今では懐しい少年時代の腕白の想い出です。

偶々父が函中―東京都文館中学―北海道師範（現在の札幌学芸大）―オーシャンクラブと一貫して野球をやっていたせいで私も弥生小学校二

小泉神経科
院長 小泉道義
川崎市幸区神明町2-9-5
☎ 044(533)3138
昭19卒　第46期

アリス画廊
鈴木茜
東京都中央区銀座8-6-10
中銀カプセルタワービルA808
☎ 03(543)8699

随想

三年生の頃から自然と野球をやる様になり船魂神社の境内で専ら近所の子供を集めてガキ大将となり三角ベースと云うのをやったものでそれと父が当時（大正末期から昭和初期）北海道ノンプロ球界ナンバーワンの函館オーシャンクラブの理事をやっておった為よく柏野球場（現在の函館競馬場の隣り）に連れて行かれバックネットスタンドでピーナッツ一袋とアンパンを買って貰い食べ乍ら試合を観戦した記憶がよく残っております。

それから弥生小学校四年―函中―小樽高商―オーシャンクラブとうとう四十才位まで野球にのめりこんでしまいました。函中時代の野球部員で三、四人が当時の肋膜炎で早死にしましたがこれは病気がすっかり治り切らないのに若さにまかせて再び運動学業をつづけた為と現在の様なよい特効薬が開発されてなかった為でその他の人はまだとても達者で社会の各層で活躍されております。それに団体運動はやっている内に自然と〝和〟と云うことがいかに大切であるかを知らされます。

私達は若い時も中壮年、老人になっても今流行のジョギングでもよしラジオ体操の様なことでもよしあくまで自分の体力に合った運動を出来るだけ長くつづけてやって併せて自己の健康管理をすることが〝いつも健康〟と云う秘訣に結びつくと思います。最後に私の伯父で九十二才の長寿を保ち一昨年亡くなりましたがよく口にしておりましたことは〝人間はくよくよせず日々是れ好日、一日に一回は納豆を食べ牛乳一合以上を飲むべし〟でした。

オストミスト

小泉道義

昭19卒（第46期）

五十年二月、私は直腸癌の手術を受け、永久人工肛門保有者（オストミスト）という一群の仲間入りをしたのである。

術後蘇生の喜びに浸りながら、三日目頃にはモリモリ食べ始めたが、そのお返しのようにモリモリ腹の上に黄金（こがね）の山が築き上げられていった。それを見た時には、流石にびっくり仰天、ああ神様から頂いた自然肛門はもうないんだなあと思うと、急に深く吸った息が、出場所を失って、脳天に上っていくような気がし、居ても立ってもいられないような気分になったものである。左横腹に造られた人工肛門をしげしげ見ると、赤い腸粘膜がそのままちょっぴり腹壁にむくれ出て、恰も私に向ってアカンベーをしているようであった。排便や放屁の快感も二度と味わうことができなくなり、まるで郷愁の念にかられるような思いがしたものである。しかしこれは、自分の命と引換えに造られたものなのだと諦められるようになったのは、つい最近のことで、そうなるまでには、人知れず泣かされたものである。

今年は国際障害者年ということだが、車イスの人だけを身障者と錯覚しているむきもあるらしい。目に見えない苦労をしているオストミストは、都内だけでも十万人は下らないという。

日本の外科学は世界のトップレベルに達したといわれるが、術後の管理、アフターケアなどは未だしの感がある。そこで私の入院中、主治医はオストミストの先輩を回してくれた。そしていろいろと参考になるアドバイスを受けたが、その苦労話を聞かせてもらって、私はやはり自分の体のことは、自分で工夫してやってみるより仕方がないのだという平凡な真理を改めて再確認した。

人生においては、自分の苦労を代って生きてくれるような奇特な人は一人もいないのである。

医者である私が癌患者の立場に立たされた時「いざ行かむ行きてまだ見ぬ山を見むこのさびしさに君は耐ふるや」という牧水の歌にいたく心を動かされた。いつかは死ななければならないのに決して死なないと思って生と死の間を生きているのが我我人間である。その時になってあわてないように、今のうちに自分なりに納得のいく死生観を確立しておく必要があるのではなかろうか。それが本当に生きることになると思うからである。

寄附広告

北州食品株式会社
取締役社長　牧野一彌
東京都港区芝浦4-17-4日本ロードビル　☎ 03(451)3703
食品加工卸売業及冷蔵倉庫業
昭26卒　第53期

ニット工業株式会社
取締役社長　新田正勝
東京都八王子市浅川町560-1
☎ 0426(63)0284・0893
●プレス・鈑金●シャーシー●通信機用筐体●試作品専門
昭32卒　第59期

アビコ外科整形外科
院長　水江晋一
我孫子市我孫子263
☎ 045(842)9316
昭30卒　第57期

水道、土木工事のパイオニア
昭和水道土木株式会社
営業部長　瀧川　宏
東京都台東区台東2-23-7
☎ 03(831)1201
昭25卒　第52期

⊙ 郵便料の値上り、会報配付数の増加などで費用が増えるため「寄附広告」の名目でご協力を戴きました。ご協力感謝申し上げます。

随想

ゴルフ讃歌

渡辺保二
昭19卒（第46期）

健康で明るく日々を過ごすことが何よりの幸福とは年と共にその感が深まって来る今日此の頃です。

幸い私は細身の体でありながら大病もせず、今日まで健康を維持しているのはゴルフのお蔭であると信じている。

私が初めてコースに出たのは昭和34年の新緑の頃でした。打った白球が緑に映えて遙か彼方に飛んでゆくのを見てからはすっかり病み付きになり、それ以来特別用のない限り週末にはゴルフ場通いを励行しています。しかし腕の方はその割には少しも上達せず今日までベストスコアは86、一寸油断をすれば100を超えることも屢々あって下手の横好きとはよく言ったものだと感心したり、くやしがったりしています。

負け惜しみを云うわけではないが私がゴルフを始めた本当の目的は健康の為であり、事実ゴルフをしていると日頃の雑事や悩み事など忘れることが出来、又少しぐらい体の不調の時などは1ラウンド位回れば良くなって、ストレス解消には大いに役立っている。

その上終って風呂で汗と疲れを流して飲む一杯のビールの味はゴルファーのみの知る人生至上の歓びでありましょう。

一方ゴルフを通じて巾広い分野の方々との交遊が生まれ、お蔭で公私共に大いにプラスになっている。特にコンペには積極的に出る様にしており、クラブのコンペ、社内のコンペ、取引先とのコンペ、大学仲間のコンペ等いろいろあるが、中でも函中46期同期のコンペは「オイ」「オ前」で付き合える気さくな会だけに非常に楽しい。毎年春秋2回函館で行っているが、1回は萬難を排して参加している。医者あり、社長あり、役人ありの多士済々、腕の方も達者な者が多くなかなか勝たせてくれないが、旧交を大いに温め情報交換には又とない機会で私にとって同期のコンペは心の「オアシス」になっている。そのうち舞台を東京に移し迎撃戦をやろうと思っている。

今后もゴルフを通して新しい球友が生まれ私の人生を更に豊かにしてくれることを祈りながら筆を置く次第であります。

函館をはなれて
ー退任の御挨拶ー

寺岡二郎

函館を去って早や一ヵ月、しかし、別離の情、黙止しがたき昨今です。札幌も、どうやら和やな風情の季節になりました。

東京支部の各位におかれましては、ますます御発展のことと拝察いたします。母校函中も、小生の旧知である、秀抜な小林新校長を迎えて、いよいよ旺んなことと想像いたしております。

私はいま、五校十九年にわたる道立高校長最後の学校が、本道随一の歴史と伝統を誇る函館中部高校であった幸せを、しみじみと嚙みしめております。

在任中、東京支部の集いに一度も出席できなかったことを、いささか悔んでおりますが反面、函館で行われた各期の記念同期会には出席し、厚遇をえましたことを有難く思い出しております。

東京支部も、その年齢構成は、まことに巾広いまとまりですが、青・壮・熟・老年の各位の胸中に共通して流れているものは、きっと、函館の歴史と風土が育んだ白楊魂だと思います。

さて、ポプラ魂とは。これは、なかなか適切に言葉では表現できないものだと思います。青い時代、函中で学んだ間に、たがいに肌で感じとった諸々の要素が複合した精神的な所産だと思います。年齢を超えての心のよりどころを互に共有できることは、ほんとうに幸せなことだと思います。

日本の首都に在って、存分に活躍なさっておられる東京支部各位の御多幸を心から祈り申し上げる次第です。

（前函館中部高等学校長）

九十九（つくも）会のこと

伊藤克郎
昭21 22卒（第49 50期）

私達が函館中学に入学したのは、日中戦争が太平洋戦争に拡大して行った昭和十七年である。当時は、元木校長の頃で、入学時の担任が、伊藤・水上・依田・小笠原（現石畑）・越野の五人。その後卒業までに、星野・菊池・尾崎・豊岡・浜岡・板垣等の諸先生に担任としてお世話になったように記憶している。

なにしろ戦争一色、通学は教科書やノートをリュックに入れてゲートルを巻き、千歳町の電停から学校まで必らず徒歩、喫茶店や寿司屋などへの出入は厳禁、映画は学校で引卒

随想

表紙絵画家のご紹介

田辺謙輔氏（昭2卒）

春陽会々員、全道美術協会々員、横浜国立大学講師

1932年　旧制横浜高等工業学校建築学科卒業、田辺三重松・水谷清の指導を受ける。

1934年　春陽会初入選以後文展紀元2千六百年奉祝展ほか数多くの美術展に出品受賞する。

1954年　渡仏、アカデミー・グランショミュールに学びオージャムに師事、以後外遊拾数回。

1980年　横浜市主催により画業45年大回顧展を開催する。

して行くものだけ、といった時代である。新入生は、名物ドヤさんこと石戸谷教官の軍事教練でみっちり鍛えられた。勉強の方も、天下の俊秀を集めた函中のこと、中学ならではの教科を存分にたたき込まれたものである。

しかし、戦争の激化につれて、昭和十八年後半頃から終戦の二十年八月まで、勉強は二の次。まず勤労動員に馳り出された。市内の肥料工場、有川埠頭の建設工事、厚沢部の田植と今金の稲刈り、道東冬山の木材伐採、上磯のセメント工場等々、少年にとってはかなりの重労働だった筈だが、不思議なことに苦しかったという思いはない。陸海軍への志願も積極的に奨励された。私も二十年四月仲間九人とともに海軍の学校へ入校、終戦を山口県防府で迎えた一人である。当時十五才、動員といい志願といい、まことに健気な戦中少年だったとしか言いようがない。

昭和二十年八月、戦争が終って仲間がみんな学校へ戻って来た。戦時中の特別措置で、一年先輩は全員四年で卒業、私達四年生が最上級生であった。五陵郭へ立てこもってのストライキ、戦後第一回の夏の甲子園（当時は西宮球場）大会への出場などは、私達が最上級生時代の出来事である。昭和二十一年四十数名が四年生で卒業、五年迄居た連中も昭和二十二年三月に卒業した。函中四九回、五十回卒業生が私達の仲間である。

昭和五十一年八月、卒業三十周年記念同期会が湯ノ川で開催された。全国から参集した師弟百余名、私達の会は九十九（つくも）会と名づけられた。名幹事中村幹夫君（北海道教育大函館分校）の献身的な努力によって、名簿も毎年更新され仲間の結束は極めて堅固である。中村君に限りない感謝を捧げながら、五十才を越えたかっての戦中少年の記憶を辿って見た。

函中自慢

喜多威夫

昭26卒（第53期）

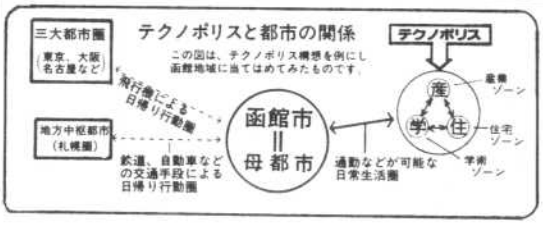
「会議は踊る」という楽しい映画がある。リリアン・ハーヴェが沿道の市民に手を振って「ただ一度だけ」を歌いながら馬蹄をひびかせてゆくあの場面を、私は戦後十年ほどしてリヴァイヴァル上映をみて楽しい映像と、また別の感慨をもった。それはこの「ただ一度だけ」は亡くなった父が気嫌のいい時のハナウタだったからだ。

私はこのレコードを手に入れ、父も親が権威のあった時代で孤立感のような、カッコウを家庭ではつけていたが案外陽気だったのではないかと思ったりした。

このレコードを家族に私の解説付で聴かせ悦に入っていたが、あるとき豚児が「お父さんの歌を一度もきいたことがない……」といったのが導火線となり、函中校歌「玄冥の北ノ一道……」を家族に特訓することにした。

飲み仲間にこれを宣伝したわけでもないのだが、或る日、同期の「I」が「お前は音痴だから歌唱指導は俺がする」と家にのりこみ、当時流行（ハヤリ）だしたカセットテープにまで、「I」を始め調子にのった私や豚児まで入れて、これをふきこみ、喜多家永久保存などと貴重品扱い、同期の飲み仲間がくるとこれに合せてドナリ始める。これが数年続くと、女房はもういいかげんに、悲鳴をあげ、豚児は数年前の自分のキンキンした声に照れていた。

この校歌自慢に始まり、函中自慢は我家ではエスカレートするばかり。「お父（とう）のでた函中は北海道の秀才が集まり、入学試験のむづかしさといったらそれはそれは……」女房にもきこえるようにカネガネ宣伝していた。函中の偉大さを父親の偉大さにすり変へる事に成功したつもりだったが、例の「I」が飲みに現れ、我は懐郷的（ノスタルジィア）な傾向が強いのか、中学一年の一学期は飛行場を作りながら、そのあいまに因数分解や化学記号を覚え……又友人同志は一個のオニギリを何人かでわけ、なぞ浪花節調も入れて豚児どもをからかいながら酒をやっていたが何の話からか「I」のやつ「オジサンの時代の中学入試は、口頭試問と内申書だけで、高校も戦後の学制改革のドサクサで無試験で進めた……」憎っくき「I」のやつは我家では断じて犯してはならぬ事を風神雷神が天気予報をふみにじるようにジュウリンしてしまった。おまけに「口頭試問」



テクノポリスとは

「テクノロジ」（技術）と「ポリス」（都市とか国家）を結びつけた造語、技術集積都市といわれ、「産・学・住」を一体とした「まち」造り。

（「市政はとだて」56.7より）

随想

なんてオジギの仕方がうまいといいなんてぬかし、以後私は「I」と絶交するか……いやまて「I」のお嬢さんに「I」の悪業の数々をバラしてやろうかと陰湿な計画をたてたりした。

「I」も私の怒りから逃げるように札幌に転勤になり、そこから「ゲーテがウエテルを卒業したようにお前も伜とうたうのを卒業し……」といった気障な詫び状のようなものをよこしたが、最近、東京本社に帰ってきたらしい。

家で、夫として父としての権威が落ちかけてきたのに、それに拍車をかけることがおこった。

これは「Y」先生からの葉書である。二十年ぶりで東京で同期会をもったとき、Y先生、A先生においでねがった。盛会で出席者も懐かしいメンバーがそろった。帰函なさったY先生は出席者に葉書を下さった。そこで私が戴いた葉書の内容は「中学のときから、デタラメで心配してたお前もなんとか……」といふ内容のもので、これはまったくその通りで、ただただお詫申上げなければならないのだが、家では女房のやつは「ヤッパリ」と納得した顔、豚児どもは「ケッケッケッ…」と小馬鹿にしたワライをする。

「俺は体制派でなかったから……」なんて言訳したがだめ、これで、ありもしない私の家庭での権威も完全に地におちた。

この事を後日、寿し屋で同期のSに会ったときコボスと、彼は愉快そうに「豪傑笑」なにしろ、Sは秀才だったので、私の「グチ」の相手も違っていたのかもしれない。

落語ファン

種田忠夫　昭27卒（第54期）

私は大の落語ファンで、暇をみつけては上野鈴本、新宿末広へ足を運び、一時浮世の憂さを晴らしてくる。昭和十八年頃、戦局も大詰めを迎えた息苦しい時代、私はまだ小学生であった。ラジオで「前線に送る夕べ」と云う番組を、毎週聞いていたことを、思い出す。

戦地に居る、大多数の農村出身の兵士達に、「東北地方の作柄は、良好です。ご安心下さい」と云う意味のナレーションの後、民謡や落語等の演芸が、放送されていた。

灯火管制下の仄暗い電球の下で、その放送に耳を傾けていたのであるから、今考えてみると、何んとこましゃくれていた事か。

その時に聞いた、先代金馬の「居酒屋」、故志ん生の「火焔太鼓」が無性に面白く、今でも忘れられない。

いつか本物の落語を、生で聞きたいと、思い込む様になっていった。

戦争が終り、少しづつ自由と文化が戻り始めて来た二十六年頃であったろうか。函館本線の列車内で、花王石鹸の広告に出てくる様な顎の突き出た人と、同席して居た。

どこかで見た事のある人の様だが、思い出せない。

機関車が喘ぎ喘ぎ雪の原野を、走っている。隙間だらけの窓枠には油煙がつもり、風と共に襟元や顔に吹きつけてきた。

「これは何んですか」歯切れの良い東京弁で彼は話しかけて来た。

私は気軽に「油煙ですよ」と答えると、「ウェー何んともユエンですなあ」と軽妙な相槌が、帰えってきた。思はず哄笑し乍ら「あっ米丸だ」と、彼の名前を思い出した。

新作落語で売り出していた彼の噺は、ラジオでも良く放送されていて、私は再び落語の虜となった。

その後、栃木県に職場を得た私は、上京の度に寄席回りを始め、名人と云はれた志ん生、三木助、文楽、柳橋、円生等の噺に吾を忘れていた。

落語協会と袂を分った故円生一門の若手が私の住む浦和市で毎週口演しているので、折をみては出かけている。

大家さん、八っつあん、熊さんの出てくるこの世界に良き日本人の人情をみるのは、私だけであろうか。

初めての子供に、長命の名前を重ねてつける親馬鹿を題材にした「寿限無」と云う噺がある。

私達の白陽ケ丘同窓会も、会員の協力で寿限無　寿限無でありますよう。

俳句

壺同人　寺岡　二郎

寒鴉鉛の空を低く切る
宰相も一行寒き史書の人
淡海に白鳥あそぶ冬日落つ
回想の風化に厳し冬の山
若者らにぎにぎしくも春巣立つ
春陽ざし臥牛の山に母のごと
雪深し渓流だけが春の情

（前函館中部高等学校長）

笛と人生

星川龍二　昭37卒（第64期）

幼な心に聴いた笛の音が、これまで自分の一生を左右するとは、夢にも思わなかった。現在私は、あるオーケストラのフルート奏者を務めているが、音楽を始めるようになった動機を簡単に述べてみようと思う。

⊙年会費はお早目に、あなたの期の理事にお届けください

随想

私と笛の出会いは、小四の時に家のかかりつけの按摩さんに一本の明笛をもらったのが始まりである。その頃の按摩さんの吹く艶かな笛の音は今だに忘れることが出来ない。フルートを手にしたのは、中2の時で、ブラスバンドに入ったのが発端である。希望に燃えて入部したものの、ラッパやドラムが相手では、フルートの繊細な音等聞こえる訳はなく、すっかりブラバンに、愛想をつかしてしまった私は、高校時代は、身体を鍛える目的もあって、バスケット部に入った。フルートの方はもっぱら、野山へ行ったり、海へ行く時など持ち歩いて、函館の数々の風光明媚な景色を眺めながら、吹いて楽しんだ。今振り返ってみても、音楽をまだ、さほど理解の出来なかった私ではあったが、笛を楽しむ、という点では、最も自然な状態にあった様に思う。その頃は専門家になろうという、考えは全くなく、将来安定の道へ進もうとしていた。道内のある大学受験を失敗して、上京した私の人生をフルートに傾けてしまったのは、故林りり子女史である。彼女からみっちりと基礎から叩き込まれ、15年前に現在のオーケストラに入団した。もう千回以上も、ステージに上っているが、今だに大事なソロの前になると、心臓がドキドキする。聴衆が恐いのでもなく、指揮者を意識するのでもなく、ステージの天井のライトの所で、モーツァルトやベートーヴェンが微笑えんでいる様な気がするからである。今日の音楽状況からすると、私はたいへんな晩稲であるが、最近になってようやく、美しい音楽に魅せられるようになった。現実を超越して、もう一度、笛を携えて野山を馳け巡った、あの青春時代に、Uターンしたい。

同期の集い

昭3卒

30期生9名の消息が判ってから数年は毎年2回平均会合しておる。いつも8名が集まる。会場は予め決めたことはない。決めるのは集合場所と時間だけ、勿論昼間に限る。会場は椅子席が条件、けっこうそれなりの店におさまってガヤガヤ。昨年秋の集まりは原宿で開催、余勢を駆って近くの著名なヤングの街に赴く。若者の流れにもまれて一同無言、キョロキョロ、「50年前はひとっぱしのヤングだったのに」の感一人。今年は6月に集まる予定、まだかの催促しきり。余程退屈なのか、齢がもたらす心寂しさからか。

（世話人　小畑文雄記）

昭5卒

昭和56年3月18日（土）正后から文京区椿山荘においてクラス会東京昭五会を開催す。卒業以来五十一年振りである。東京9名函館6名の出席があり懐しい老顔をほころばせ時の過ぎるのも忘れ昔話に花を咲かせた。お互の健康を喜び合い来年の再会を約し后3時過ぎ散会した。東京昭五会はこれまで独自の会合をもたなかったが地元函館とも連絡をとり今後は毎年開催し、相互の親睦を図ることを申し合わせた。なお、東京昭五会の会員は平均年令69歳、二十九名である。

（岩橋守藤記）

（筆者岩橋氏は永年に亘る関税行政に尽した功績により今春勲四等瑞宝章叙勲の栄を受けました。—編集）

昭7卒

第34期（昭和7年卒）の同期会名称は東京銀楊会と称します。首都圏在住同期生は32名で毎年、2回会合を持っております。今回は4月14日正后から〝池袋サンシャインシティ60〟の緑丘会館で開催しました。出席者は大原、徳田、永野（旧姓水野）竹内、三ッ谷、東洋、松田、鈴木、来伝野の諸氏と小生で計10名。殆んどが自営業と隠退組なので専ら昼の時間を利用しております。僅か三時間位の間でしたが話は専ら学生時代のヤンチャ振りや、亡き恩師達の教え方の批評で、先生の本名が思い出せずニックネームが先に出てしまうなど大笑いでした。仲々話はつきなかったが、次回は秋に伊豆方面一泊旅行と云うことを決めて散会しました。

（世話人三ッ谷信栄、伏見滋夫記）

昭8卒

われわれの期は在京同期生を中心に東北及び関西在住者も含め約30名が時折集って旧交を暖めています。その名は「函八会」。今年は二年振りで、去る4月17日当番幹事加藤敏雄君の世話で初台の三菱の寮を借り20名が顔を合わせました。関西から3名の出席があり、特に奈良から出席された橋本龍雄君は、いままで消息が不明であっただけにこの再会はまことに嬉しいものでした。なお、恰度よい機会でしたので同窓会支部結成の経緯を話し、会費の納入には是非積極的協力を要請しておきました。次に集まるときは札幌や函館在住者にも声をかけようということで校歌を合唱して散会。（宮本武雄記）

安田耳鼻咽喉科
院長　安田和秀
東京都豊島区要町1-26
☎ 03(957)3387
昭20卒　第48期

会務（概要）報告

○総務関係

常任理事会

55・3・25　於芝増上寺会館、12名出席　①55年度会費徴収と会報作成②55年度総会開催日時③期理事一名変更④常任理事業務分担検討の4件審議

55・5・12　於新宿ココパーム　8名出席　①総会開催細目事項②会報作成中間報告の2件審議

55・7・10　於芝増上寺会館　13名出席　①常任理事業務分担案②会報部数その他事項③年会費の処置の3件審議

55・10・3　於ニュートーキョー　9名出席　①総会諸準備打会②年会費領収証の発行の2件審議

55・12・19　於不二越サロン　12名出席　①総会実施成果検討②理事会開催日及び提案議題③56年度事業計画（含予算）の3件審議

56・5・26　於不二越サロン　14名出席　①会報作成中間報告②総会開催基本方針確認の2件審議、なお里川常任理事から「企画担当としての考え方」小畑常任理事から「①規約中一部変更案②財源増収案」の提案があり今後の検討課題として採択

理事会

55・1・25　於ニュートーキョー　36名出席　①既往常任理事会で審議された諸事項を整理し提案承認さる。

55・9・4　於ニュートーキョー　38名出席　①年会費入金状況検討②総会開催の件ほか審議承認

○運営関係

昭和55年10月30日第4回白楊丘同窓会東京支部総会ホテル・オークラにおいて開催（2頁掲載）

○会報関係

①昭和55年7月1日「東京白楊だより」第2.3合併号発行②昭和56年3月1日「東京白楊だより」特別号発行

○財務関係　（3頁掲催）

○企画関係　特記事項なし

○記録関係　同

昭14卒

⊙函館にて―昭和54年夏季大会開催出席者60名。⊙札幌にて―昭和56年夏季大会開催出席者60名。⊙東京にて一年一回ニュートーキョー出席者25名。⊙卒業40周年大会は函館にて開催、貸切バスで市内めぐり記念撮影。（三上　佑記）

昭25卒

玄洋会最近の集い

世話人　中村勝哉、吉田信一、小泉龍彦、福津達男

⊙昭和55・11・28、忘年会、於熱海観光ホテル、出席者18名。⊙昭和56・2・7、二上棋聖祝いの集い、於西銀座花車、出席者19名、⊙昭和56・4・8　故福沢秀雄君告別式、参列者18名、同君は病気療養中薬石効なく逝去、享年50歳、卒業30周記念記のゲラ刷りを棺に納め花を供えた。冥福を祈り友の死を悲しむ。⊙昭和56・5・13　さつきの集い、於新宿花車　出席者21名、故福沢秀雄君御遺族を励ます会、

昭27卒

第54期クラス会は10年ほど前から関東在住者約60名の氏名住所を確認し、毎年5月に定期的に開催しております。昨年は新宿の関西料理店で開催、約40名出席。浜岡栄一、越田平八郎両先生がご出席。盛会裡に終わりました。今年は6月13日池袋サンシャインビル内緑丘会館で開催する予定です。世話人は山口雄三郎、石川和洋の両君。（種田忠夫記）

昭29卒

東京同期会は昭和46年に第一回同期会を開催し本年で11回目を迎えました。昭和54年には卒業25周年を祝し在函有志の協力により母校にボール時計を寄贈しました。本年も9月頃同期会を開催する予定でおります。詳細は幹事から案内致します。

（黒川陸郎記）

昭30卒

昭和56年2月28日后5時から新宿住友ビル内住友クラブにおいて第57期の同期会を開催。同期生34名と越田先生がご出席、越田先生を囲み盛況な一夜をおくりました。（世話人　渡辺浩二、自宅電〇四二四（八六）三五八八

昭35卒

昨年8月10日函館拓銀ビルで開かれた第62期卒業20周年記念同級会に出席しました。この催しに先立ち湯の川シーサイドカントリーで同期生のゴルフコンペが催されましたが生憎小生にはその心得がないので参加しませんでした。同期会は夕方から開らかれ出席者数約70名全員の記念写真撮影から始まりお互の近況報告と久々振りの懐しい再会でした。

永い間忘れていた函館の味、懐しい味でした。特に「毛がに」の味は格別のものでした。当日出席された在学中の恩師黒沢、横田、菊地、杉江、松村の諸先生は現職を退ぞかれ溝江、加藤両先生だけだそうです。

わざわざ東京から出かけて参加した甲斐のある同期生会で

東京支部のより一層の発展を期すため、次のことがらにつき、皆さまのご意見を支部事務局までお寄せください。

㋑運営面の改善または新企画、㋺総会運営全般、㋩会報編集方針、㋥その他

した。在京組も東京周辺の輪を更に拡げ年一回親睦の会を持ちませう。（荒井　浩記）

昭33卒

①第60期同期会開催、②昭和56年1月17日（土）后5時から　③会場新宿伊勢丹会館「薩摩しやも」　④出席15名（吉田信一先生特別参加）なお60期生の東京近郊在住者約40名を確認しております。（世話人中角久典　電〇三（三八五）九八三二

昭34卒

本年2月7日（土）の夜、有楽町ニュートーキョーで第1回61期生（昭34卒）関東同期会を開催しました。出席者35名内女性は13名、世話役は堀内（旧姓柳生）さんでした。卒業21年目の昨年8月、始めて函館で大規模な同期会と名簿作りが行なわれました。その名簿を基に首都圏在住の同期生が連絡し合い、昨年のホテル・オークラでの第4回同窓会と今回の同期会に集合する運びとなりました。同夜は卒業後初めて再会する人も多く、自己紹介から始まり、アルコールがまわって話がはずむ裡に予定した時間はあっという間に過ぎました。皆名残りを惜しみつつ再会を期し散会。（橋本正夫記）

第5回白楊丘同窓会東京支部総会は、今秋十月二十三日にホテル・オークラにおいて開催する予定です。いづれ詳細は各期理事から御案内申し上げます。

母校からの通信

≪国公立大学合格数、開校以来の新記録≫

国公立大学共通一次試験が実施されて三年目、函館経済界の不況を反映してか、或いは生徒諸君の勉強意欲が大いに燃えて、合格線を上回る者が多かったためか、国公立大学、地元志向の傾向が強まっております。

共通一次試験は、三年生三百九十七中三百三十が受験、平均点六百七十一点（全国平均六百七点）、全道四位の好成績でした。

二次試験も、共通一次の余勢をかって、東大三、東北大九、北大五十九、北海道教育大五十三、室工大十四、小樽商大九、旭川医大五、札幌医大三、弘前大十一等、全国の大学に順調に合格しました。

国公立大学合格数は、現役で百七十三で、今迄最高であった昭和四十九年の百五十三をしのぎ、又現浪合計では二百三十八で、これも今迄最高であった昭和四十五年の二百八を大巾に更新し、現役、現浪合計共、開校以来の新記録となりました。

≪私立大学の合格状況≫

国公立大学志向が強まったため、私立大学合格数は数年前よりやや減少、早稲田九、慶応七、中央十五、明治八、法政九、日大十三、青山学院八、東京理科八、同志社六、立命十五の程度に止まりました。

私立四年制大学の合格数は、昭和五十四年二百九十四、五十五年二百六十、五十六年二百三十五と漸減しております。

≪後輩の激励、御指導のお願い≫

これら大学に進学した後輩達が、大学卒業後、函館に職を求めることは、大変困難な現状です。彼等の大多数は首都圏で働く事となりましょう。彼等に対し、諸先輩の暖かい激励と御指導を、切にお願いいたします。

新制高校になってからの国公立大学合格数

昭和（年）		人
24	49	
25	130	
26	124	
31	180	
32	180	
33	201	
45	208	(74)
46	194	(56)
47	172	(46)
48	166	(48)
49	203	(49)
51	199	(65)
52	189	(67)
53	199	(75)
54	187	(52)
55	196	(66)
56	238	(65)

（　）合格浪人数

あとがき

〇原稿締切日には予定の約90%の数が集まった。早ばやとレイアウトを終え、全体見直しに入った頃、ぞくぞく長編原稿が届けられた。このような場合の心境は「関心を持って寄稿された方への感謝、嬉しさ、それと裏はらに、なんでいま頃に、困惑、やり直しの億劫さから投げだしたい気持ち、イヤ、矢張りなんとかしなければと、イライラした心の揺れ…」この全部です。ともあれ、寄稿者のご協力に応えねばならぬと、急拠編集のやり直しにかかりなんとか事態を収拾しました。

次回からは、原稿の指定枚数と締切日をお守りください。

〇仕事の合間をみての素人編集、この辺が全力投球の限界。会員の中には一流のプロ・ベテランが多くおられます。より充実した会報ができあがるよう、ご指導ご支援を抑ぎたいものです。

発行・白楊丘同窓会東京支部
編集人・三上　佑　佐藤美江子
渋谷昌平　小畑文雄
支部事務局　〒160 東京都新宿区坂町18　小畑文雄方
☎03（351）2012
印刷　㈱サン・エポック
〒160 東京都新宿区新宿2-7-7
☎03（354）8888